

4. 消費収支計算書を企業会計的に経営分析した場合 表4参照

1)説明

学校法人は利益追求を目的としていないため、学校法人会計基準に基づいて作成された計算書は、大変、解りづらいものとなっています。この計算書は企業会計的に作成したもので、企業では経営成績を示す計算書となっています。どこの部門で利益が上がったのか、赤字となってしまったのかを検証して分析をすることで、その原因を探り、収支改善を図っております。

2)科目の説明

①売上総収入

本来、売上総収入から仕入れ(材料費等)を除いた額の売上総利益を計上することになるが、学校法人では仕入れに該当する算定は困難のため本表では、仕入れ(材料費等)は一般管理費に計上し、ここでは営業活動(教育研究活動)から得た収入とした。
(本表では…学納金、手数料、寄付金、補助金、事業収入、医療収入)

②一般管理費

人件費及び一般諸経費を示すもの。(減価償却額を含む。)
(本表では…人件費、教育研究経費、医療経費、管理経費)

③営業利益(①-②)

営業活動の成果を表し、営業損益の利益を示すもの。

④営業外収入

営業活動以外で発生する収入。
(本表では…資産運用収入、資産売却差額、雑収入)

⑤営業外費用

営業活動以外で発生する費用。
(本表では…借入利息、資産処分差額、徴収不能引当金繰入額)

⑥営業外収支(④-⑤)

営業活動以外の成果を示すもの。

⑦経常利益(③+⑥)

営業活動と営業外活動の成果を表し、経営成績を示すもの。

3)本表の説明

平成26年度の①売上総収入は475.63億円、②一般管理費は460.88億円となり、③営業利益(①-②)は14.75億円の黒字となりました。また、⑥営業外収支(④-⑤)は0.41億円で、⑦経常利益(③+⑥)では15.16億円の黒字決算となりました。